

## 「災害関連標準手話ハンドブック」電子ブック版を掲載いたしました

「東日本大震災に関する聴覚障害者関連の情報」サイトに、2011 年 3 月に掲載した「東北地方太平洋沖地震災害関連標準手話ハンドブック」を再編集した「災害関連標準手話ハンドブック」を電子ブック版として掲載しました。

こちらはA6判冊子として、すでに全日本ろうあ連盟加盟団体会員、全国手話通訳問題研究会会員、聴覚障害者情報提供施設、ろう学校・特別支援学校、47都道府県障害者福祉関連部署、全国NHK放送局等へ配布したのですが、上記会員以外のより多くの方々が閲覧しやすいよう電子ブック版として作成したものです。目次検索・キーワード検索、付箋、書込み、切り取り等の加工保存も容易にできます。個人または手話サークル等団体が、プリントアウト・コピー等の使用・配布は自由ですので、ぜひ多くの方々に周知していただけますよう、よろしくお願いいたします。また、各団体のホームページに「災害関連標準手話ハンドブック」のリンクボタンを掲載していただき、すぐにハンドブックが閲覧できる仕様のご検討もあわせてお願いいたします。

なお、このハンドブックの作成・配布及び電子ブックの作成は、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業として行なわれました。

### 「災害関連標準手話ハンドブック」

アドレス：<http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/saigai-handbook>



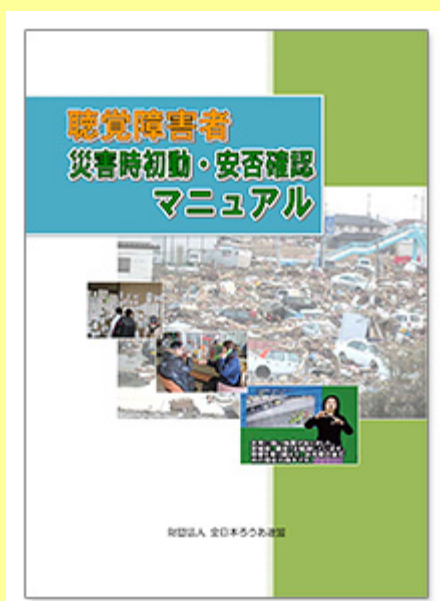
## 「聴覚障害者災害時初動・安否確認マニュアル」を作成いたしました

2011 年度、厚生労働省より委託を受け、「聴覚障害者災害時初動・安否確認マニュアル」と「手話通訳者等派遣調整マニュアル」を作成いたしました。

このマニュアルは、災害時に聴覚障害者の命や生活を守るために、何をすべきかを解説しています。地域の聴覚障害者団体や、各自治体、また聴覚障害者のみなさまも、ぜひお読みください、ご活用ください。

「聴覚障害者災害時初動・安否確認マニュアル」「手話通訳者等派遣調整マニュアル」  
アドレス：<http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/p018>

初動・安否確認マニュアル



手話通訳者等派遣調整マニュアル



## 「災害時の防災グッズ 障害のある人が使う視点での調査報告書」

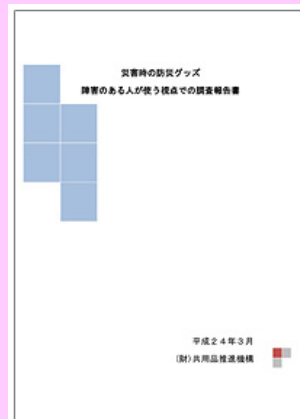
公益財団法人共用品推進機構は、非常時に持ち出す一般の防災グッズが、障害のある人等が使いやすいものになっているのか、なっているものがあればどの点便利かを調査し、非常用の防災グッズを購入する際の参考にしたいと聴覚障害者団体、視覚障害者団体、肢体不自由団体等にヒアリングを実施しました。その調査報告がまとまりましたので「東日本大震災に関する聴覚障害者関連の情報」サイトに掲載しました。ぜひお読みください。

「災害時の防災グッズ 障害のある人が使う視点での調査報告書」  
アドレス：

<http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/bosai-goods-chosa>

公益財団法人共用品推進機構

アドレス：<http://kyoyohin.org>



義援金総額 65,441,407円 (1,258件：5月24日現在)  
多くの皆様から暖かいお気持ちをお寄せいただきありがとうございます  
これからもご支援ご協力、よろしくお願いいたします



## 「東日本大震災聴覚障害者救援中央本部の活動」ポスターの展示状況

ポスターのご案内ページ：<http://www.jfd.or.jp/tohoku-eq2011/p012>

＜お申込み先＞救援中央本部情報・広報担当：後藤・中村 F A X 03-3267-3445

### ＜栃木県「第 58 回定期総会」＞

5月27日（日）宇都宮市文化会館小ホールにて午前の部・第58回定期総会を行い、午後の部・講演会を講師：宮城県聴覚障害者協会理事菅原伸哉氏を招き、講演テーマ「3.11 私たちの証言」と題して様々な生々しい話を聞き、恐ろしさが伝わってきました。一番大切なことは近所の付き合いをし、お互い助け合うことは絶対必要であることを話しました。また、義援金 16,352 円が集まりました。以下参加者から感想を頂きました。（栃木県聴覚障害者協会）

「東日本大震災の手作りのポスターを見て、改めて震災の恐ろしさ、すごさを感じることができました。それと同時に、被災地の「なかま」達の頑張りや復興の様子が伝わってきました。現地のみなさんの笑顔の写真を見て、人間の強さや人と人とのつながり・「絆」を感じました。今後自分のできるかぎりのお手伝いをしたいとも思いました。こういった現地の様子を伝えることは、今後の復興を継続して支えるためにも大切だと思いました。 N.M」



### ＜講演を聞いて＞

◆「未曾有の災害を経験され、ご自身の体験また、その後の取材活動での被災者体験談を伺い、改めて当時の大変な状況を知ることが出来ました。ご家族、ご近所の方の情報の有無によって生死が分かってしまった現実、普段からのお付き合い、交流が災害時の助け合いにも繋がると思いました。もし自分の住む地域で災害が起きたら、自分には何ができるだろう、自分は何をすべきだろうと考える機会となった講演会でした。 Y.S」

◆「2011.3.11、忘れる事の出来ない日です。講演の間中、講師の菅原伸哉氏が、笑顔で話されている姿に感動しました。当時を思い出し、東北に親戚知人が居る私の状況と重ねて拝見しました。あれから、1年以上経つ今でも苦しい状況が続いている現状に、仲間や人との付き合いの大切さを改めて感じました。 H.T」

